

酒々井町

郷土研究会会報

第134号

平成21年10月1日
酒々井町郷土研究会
広報部

本佐倉城跡が

発掘されました！

町社会教育課文化財班

広瀬 千絵

中世戦国時代の城跡である本佐倉城跡の往時の姿が見えてきました。

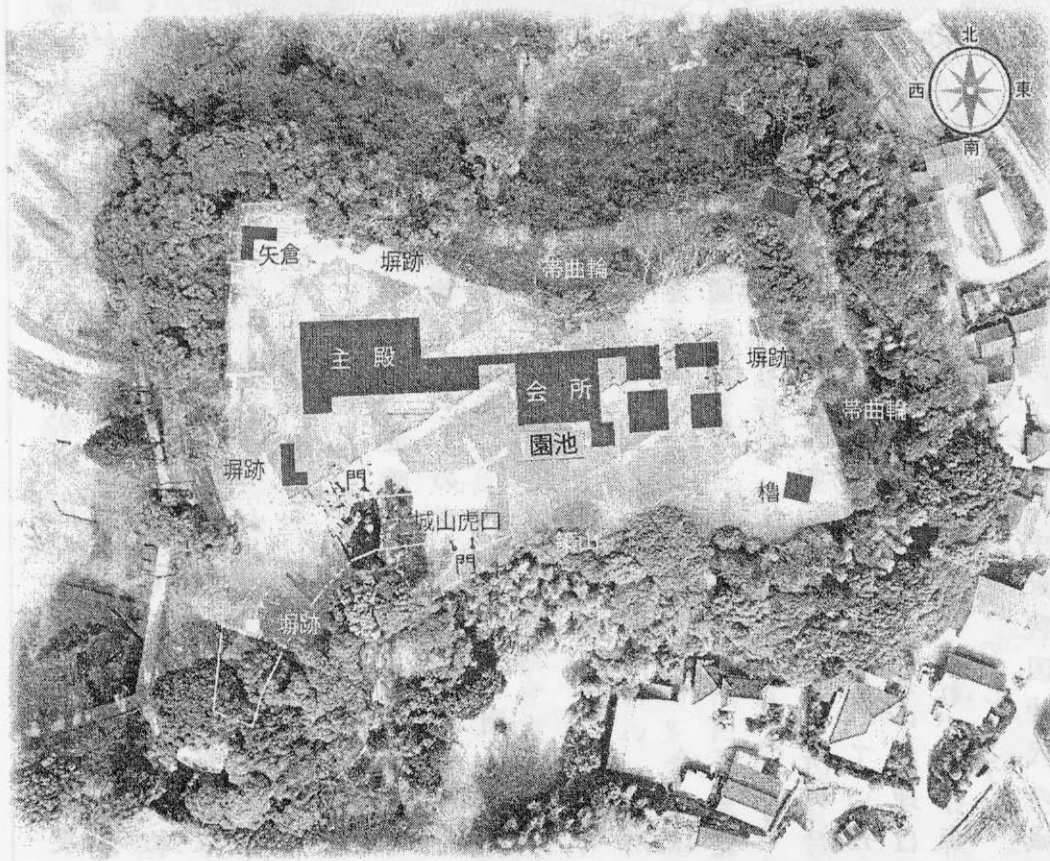
平成十五年度から二十年度まで酒々井町により発掘調査が行われ、今年度はそれらの成果の総まとめの段階に入っています。今回はそのなかから一足早くその成果をお話します。

本佐倉城跡は今から約五〇〇年前（一四七〇年前後）に千葉氏によって造られました。九代の城主が本佐倉城を本拠とし、下総国を治めていました。しかし天正十八年（一五九〇）、豊臣秀吉の天下統一により敵対していた千葉氏は滅亡し、主を失くした本佐倉城もまた廃城となりました。その間約百年間でした。さて、その間約百年間でした。

本佐倉城は内郭群七郭、外郭群三郭の計一〇の郭を持つ城です。発掘調査の中心は、そのうちの一の郭である城山の内部を調べることであり、六年間の調査でその全貌が分かってきました。

城山はその周囲をぐるりと土塁によって取り囲まれています。一、二mの高さのある土塁の上からは堀跡が見つかります。その土塁と堀によって守られた内側はどのような空間だったのでしょうか。まず、城山唯一の出入り口である城山

虎口からは門跡が見つかっています。門幅約三m、主柱と控柱を持ちます。虎口は坂虎口となっており、大きく見えたでしょう。城山虎口を抜けると北側に門跡が



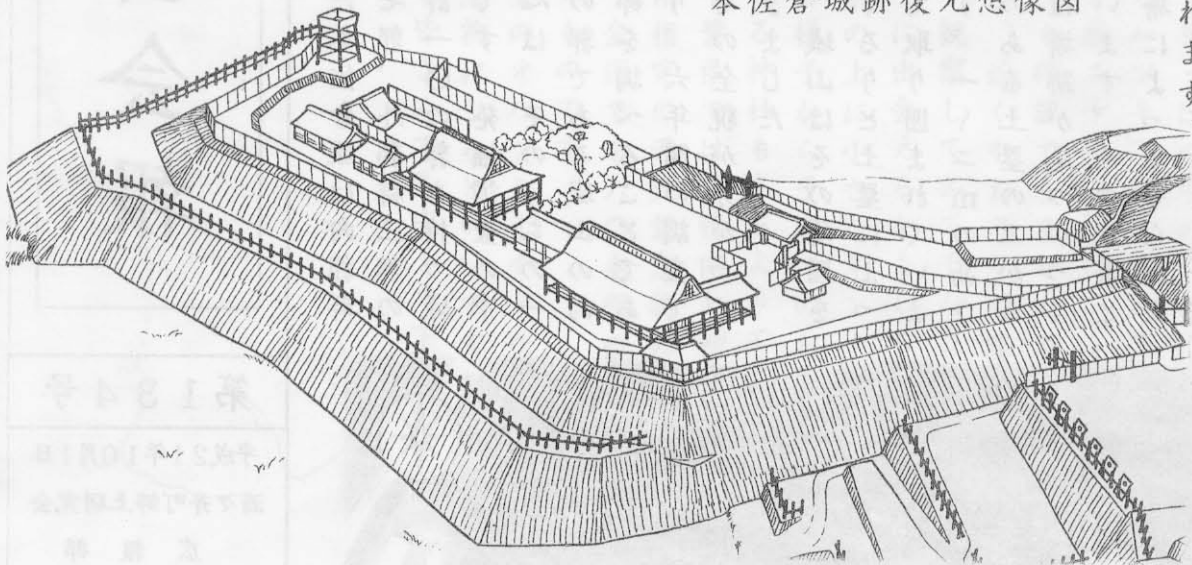
見つかり、南側のゆるくカーブした先には奥ノ山が見えてきます。門跡は幅約三・七m、かなり大形の門となります。

次に建物群です。東西二八m、南北一〇・八mの城山では最も大形の掘立柱建物跡で、おそらく主殿と考えられます。また、その東側には東西一三・五m、南北一一・二mの城山で二番目に大形の掘立柱建物跡が見つかり、会所と考えられます。また、四四方の小さな建物が付属しています。建物の南側には長軸約一一m、短軸約八mの楕円形をした園池跡と考えられる窪地と、景石を据えたと考えられる無数の穴が見つかりました。また園池跡の南側には築山と考えられる高まりが現在も残存しています。

さらにこれら大形の建物の東側には小形の掘立柱建物跡が四棟見つかっています。建物の性格は現在検討中ですが、おそらく台所や物置といった役割があったのでしょう。また、北と南東隅には物見櫓と考えられる建物跡が見つかりました。北のものは平面L字型の平矢倉、南東のものは約四m四方の井楼櫓と

考えられます。さらに帯曲輪の北東隅からも掘立柱建物跡が見つかり物見の役割をはたしていたと考えられます。

本佐倉城跡復元想像図



以上が城山の発掘調査の成果となります。そしてこれらの成果を實際に想像して復元したものが「本佐倉城跡復元想像図」です。郭全体は堀で囲まれ、出入り口は南側にある虎口一ヶ所しかありません。北と南には櫓が配置されています。その中の主殿、会所などの大形の平屋の建物、またその奥には四棟の小さな建物がみえます。会所の南側には庭園も造られています。

おそらく城主は主殿において執務や客人の接待などを行い、会所で宴が催されたのでしよう。会所は庭園に面しているため、宴は庭を愛でながら行われていたのでしよう。

また、茶室と思われる会所の付属屋では茶の湯も楽しまれていたのではないでしようか。宴の料理は隣接する台所などで作られ、渡り廊下で会所に運ばれたのでしよう。

このように中世戦国時代の城跡の一の郭の全貌が明らかになる例は全国的にもそう多くありません。酒々井町では今後、これらの成果をもとに本格的に整備を行っていき予定です。これから少しずつ現代に蘇る本佐倉城の様子を見守っていただく下さい。

郷土の歴史に学ぶ

子安 昌人

初めて国指定史跡本佐倉城跡を見学した時、目の前に広がる風景が時代を遡らせ、あたかも自分自身が当時の世の中に引きずり込まれてしまったかのような、何とも言えぬ不思議な衝動に駆られました。

復元されていない自然のままの地形だからなのか、あの場に立つと、恐らくきつと、当時はここに屋敷があり、堀があり、人々の生活があったのではないかなどと、勝手に想像してしまうのです。

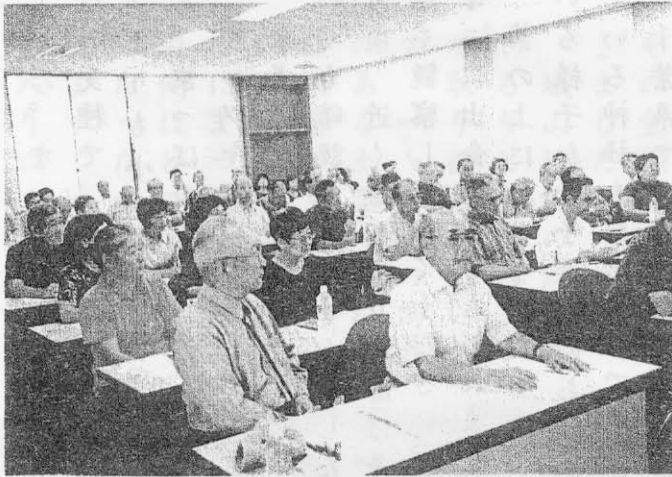
先日、酒々井町町制施行120周年記念郷土史講座に参加させていただきました。「戦国時代の房総と郷土」と題し、講師の高橋健一先生から、豊富な資料をもとに、わかりやすく説明していただき、あの本佐倉城跡の地形と眼下に広がる景色を思い浮かべながら拝聴させていただきました。

縁あって酒々井町教育委員会に勤務しておりますが、この歴史と伝統、そして豊かな自然をいつまでも残すとともに、有効に活用することが大切であり、教育委員会の役割で

あると考えます。特に次代を担う子ども達にとっては、かけがえのない財産であり、願ってもない教材です。「郷土研究会」「酒々井ふるさとが

「郷土研究会」そして「酒の井の碑広場管理委員会」など、地域の皆さんにご協力をいただいているところですが、子ども達が郷土の歴史・伝統・自然について、直接、そのことに関わっている方々から学び、体験し、実感することが、今、まさに必要なことであると思います。

今回、郷土史講座に参加し、改めて、「ふるさと」としての愛着を持ち、



郷土史講座 「戦国時代の房総と郷土」

誇りを持てる町、「人と自然と文化が奏でるしあわせハーモニー・酒々井」の実現に向けて努力しなければならぬと強く感じました。(酒々井町教育長)

「皇居と靖国神社方面」

に参加して

桂 啓子

六月三日水曜日日本の参加者三二名、はつきりしない空模様の中、九段下駅下車靖国神社へ、今年に靖国神社創立一四〇年とのこと。

大鳥居、西側の狛犬に迎えられ銀杏並木を歩く、参道の途中にはこの神社を建てた大村益次郎の銅像があり、境内には桜の木が多く春には花見客でにぎわったことでしょう。

本殿近くに、二一歳青年搭乗員のお母上様へ「私の心さながら明日のごとくです」の手紙が目にとまる。「にっこり笑って散っていきます。日本の花と一緒に散り身も心も清く一歳の童子に帰って散っていきま

す。」等々の文面に切なさを感じる思いでした。北の丸公園にて昼食。武道館の前を通り、皇居東御苑へ、北桔梗門を

渡り同心番所、百人番所、天守台、富士見櫓などに徳川三百年の江戸城の姿がみられた。赤穂浪士の松の廊下跡、松の木を配した石垣や堀割に凄さを感じ大手門へ。

次に日比谷公園へ、我が国最初の洋式の庭園。心字池や色とりどりの花壇が自然に調和して美しい。目に青葉。清々しい季節の風をいっばいに感じながらの一日でした。



《観察メモ》

【オハツキイチョウ】

(御葉付き銀杏)

墨の「泉光院」の境内入口に樹齢百年(樹木医推定)のイチョウの大木があります。

平成十九年十一月二十五日の調査で「オハツキイチョウ」と確認でき

ました。オハツキイチョウはイチョウの変種で、葉の上に普通のギンナよりも小さな実をつけるものです。葉っぱの中の、ごくごく一部が「オハツキ」になります。

平成二十年の秋は、「オハツキ」が一つも確認できませんでした。十一月頃、近くをお通りの際は是非注意深く観察してみてください。「オハツキ」に出会えるかもしれません。

葉の上に小さなギンナンが乗っている様子から子育てのお守りになっている神社もあるようです。

千葉県では、竹岡と神崎町の二本が県指定の天然記念物になっています。全国でも六〇本程の、とても珍しいものです。

墨のオハツキイチョウが指定天然記念物になるといいですね。これからも皆さんで見守って下さい。



計報

前会長の青木朝次氏には七月七日ご逝去されました(享年八十四歳)長らく郷土研究会で活動され平成十一年から八年間会長として会の運営にご尽力頂きました謹んでご冥福をお祈りいたします

青木前会長を偲んで

寺本 恵美

二十数年前、文化財愛護週間の時、上岩橋貝層やカンカムム口、伊篠の松並木の草刈りをした後、千葉テレビの撮影があり、今の西庁舎の所にあったユウカリの木に名前を付ける作業を、前会長といっしょにした時、言葉を交わしたのが初めだったように思います。

それから十数年後、会長になられ、得意分野の古文書読み、道標調査など、色々とお手伝いをし、とても真面目で熱心なのに驚きました。会長を退かれてからは、ゆっくりされていらっしやると思っていました。突然の訃報に驚きました。お悔やみ申し上げます。

< 郷土研日誌 >

月日	活動内容	参加者
6.26	会報印刷 「野草観察教室」講師派遣	5 2
6.27	「しすい学」講師派遣	1
6.28	会報発送(第133号)	17
7.4	史談会(成田参詣記)	23
7.5	町制120周年記念表彰 受賞	2
7.21	小絵馬展・郷土史講座 打合せ	15
7.24	「野草観察教室」講師派遣	2
7.25	「しすい学」講師派遣	1
7.30~8.2	小絵馬展	278
8.18	研修部々会、広報部々会	11
8.22	「しすい学」講師派遣	1
8.23	郷土史講座	68
8.28	「野草観察教室」講師派遣	2
8.29	運営委員会(10~12月期行事)	18
9.3	会報編集・読合せ	5
9.5	史談会(成田山参詣記)	19
9.9	野草観察会・下見	3
9.10	会報編集	5
9.15	研究会(臼井城跡見学)	13
9.16	名勝探訪(尾上方面)	24
9.18	会報編集・読合せ、割付、校正	5
9.25	「野草観察教室」講師派遣 会報編集・最終校正	2 5
9.26	「しすい学」講師派遣	1



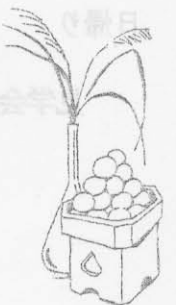
見学

案内

日帰り見学会

十月二十六日(月)

雨天決行



の店も多く見られ当時を偲ぶことができず。
道の駅「大多喜たけゆらの里」で昼食後、いすみ市にある天台宗の寺、行元寺に行き「波の伊八」「又八」の技、彫刻を見て帰路につきます。

名勝探訪

十二月九日(水)

雨天 十二月十八日(金)

「伊藤左千夫の

ふるさとを歩く」

徳川四天王のひとり本多忠勝が治めた十万石の城下町大多喜を訪ねます。古い町並みが残っていて、江戸時代に藩の御用達を務めた渡辺家、店の前には今も家紋の入った暖簾が見られます。また、町内には土蔵造りの家が何軒も残っています。商家の雰囲気は今に伝えていいます。呉服店や陶磁器店、書店など屋号

江戸時代、漂流した漁船を寺の灯りが導き、無事に難を逃れたことから「浪切り不動尊」と呼ばれ親しまれている。今は遙か彼方に海が見え、

本堂に登ると当時を偲べれます。この地は「野菊の墓」の作者伊藤左千夫の故郷でもあります。伊藤左千夫記念館や生家も見学して、九十九里七福神の一つでもある寿老人の光明寺や、毘沙門天の新泉観音堂を拝観して帰路につきます。

師走ですので気忙しいでしょうが、一日心を休ませてみるのも良いと思います。

あとがき

九月十六日民主党鳩山内閣発足。「脱官僚」「財政の無駄遣い見直し」に期待します。次の世代に負担を残さない、何より日本の国を考えた政治をしてほしいものです。

先日夜空にくっきり美しい月が輝いていました。本佐倉城の会所ではどんな月見の宴が催されたのでしょうか。

陰暦八月十五日は十五夜で中秋の名月。陰暦では七、八、九月が秋で八月一五日がちょうど真ん中なので中秋というのだそうです。今年十月三日が十五夜です。

新入会員を募っています。皆様お誘い合わせのうえ、郷土研の各行事にご参加ください。

郷土研行事案内

平成21年10月～12月

史談会	10 月	11 月	12 月
日帰り 見学会	休 講	休 講	5日(土) 13:30 中央公民館会議室 「成田参詣記」③ 講師：高橋健一先生
名勝探訪	<p>「伊藤左千夫のふるさとを歩く」 12月 9日(水) 雨天代替日 12月18日(金) (問合せ 7:00～7:30 寺本まで)</p> <p>参加費 100円 別途、交通費・入館料等が必要です。 その他 弁当、飲み物等は各自ご持参下さい。</p> <p>集合時刻・場所 8:30 JR酒々井駅・構内改札口前(階段上) コース JR酒々井駅—佐倉駅(乗換え)—成東駅…浪切不動院…伊藤左千夫記念館 …山武市歴史民族資料館…伊藤左千夫生家…耕葉橋…光明寺…新泉観音堂 …成東駅—佐倉駅(乗換え)—JR酒々井駅 (徒歩 約8km) 16:30頃 解散予定 (場合によりコースに変更あり)</p>		

「十万石の城下町をたずねる」

10月26日(月)

町バス利用

雨天決行

参加人数 33名

参加費

1,500円(食事代・入場料を含む)

集合時刻・場所 8:45 中央公民館脇

コース 公民館—大多喜・城下町散策—「大多喜・たけゆらの里」《昼食》—いすみ市
・行元寺—公民館 16:00頃 帰着予定 (場合によりコースに変更あり)

キャンセル 実施3日前まで、寺本 へご連絡下さい。

《申込受付》 10月7日(水) 9:00～10:00 公民館ロビー

【注】都合により町バス利用が取消されることがあります。その場合「日帰り見学会」は中止します。中止となった場合は、参加申込者にその旨を直接連絡(電話等)いたします。

郷土研トピックス!

- ★ 町制施行120周年記念『小絵馬展』を開催しました。今回は、吉祥寺からお借りした小絵馬と当郷土研保有の絵馬とを併せて展示しましたが、老若男女たくさんの方々にご高覧いただき、望外のご好評を頂戴しました。期間中のご来場者は凡そ300人でした。有難うございました。(展示期間：7月30日～8月2日)
- ★ 町制施行120周年記念『郷土史講座』は、講師に高橋健一氏をお迎えし、「戦国時代の房総と郷土」というタイトルでご講話をいただきました。“酒々井町”、“本佐倉城”、“千葉氏”にまつわる由来・歴史を、豊富な資料をもとに多様な切り口で解きほどこいていただき、興味尽きない内容でした。町長ほか来賓の方々も熱心に聴講され、会場満杯で盛況裡に終了しました。(開催日：8月23日)
- ★ 町制施行120周年記念事業の一環として「酒々井町史跡ウォーキング」が実施(10月25日)されますが、当郷土研メンバーも史跡案内を担当する予定です。